伊藤康一郎先生のご逝去を悼む

日本比較法研究所所長　伊　藤　壽　英

故　伊藤康一郎教授

2017年８月25日，本研究所所員・中央大学法学部教授，伊藤康一郎先生が逝去されました（享年62歳）。先生は1978年に中央大学法学部を卒業し，大学院に進まれ，1983年からは藤本哲也名誉研究所員を代表とする共同研究「犯罪学・被害者学の比較研究」に参加し研鑽を積まれました。その後，都市防犯研究センター，大阪商業大学で研究をお続けになり，2012年に本学法学部に着任し，研究所所員となられました。先生の比較法研究の対象はアメリカ犯罪学であり，近年は，リスク社会における犯罪予防を中心に研究をなさっておられました。研究に取り組む姿勢には決して妥協を許さない厳しいものがあり，その堅実な手法からまとめられた研究業績は，学会から高く評価されていました。また，教育面では法学部，大学院で，刑事政策，犯罪学の授業を担当されると共に，共同研究「犯罪学・被害者学の比較研究」の代表を引き継がれ，2013年以降中断していた同共同研究が『比較法雑誌』に発表していた「アメリカ犯罪学の基礎研究」の復活に向け，後進の指導にも力をおいれになっているところでした。同僚や後輩にはいつも朗らかに接してくださり，会議などではユーモア溢れる発言で場を和ませてくださいまし

た。先生のにこやかな笑顔に接することができないことは寂しい限りです。所員一同，つつしんで伊藤康一郎先生の逝去を悔やみ，ご冥福をお祈りいたします。

〔略歴〕

1955年1月15日	出生
1978年3月	中央大学法学部法律学科卒業
1981年3月	中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士課程前期課程修了
1986年3月	中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士課程後期課程満期退学
1986年4月～1988年3月	中央大学法学部兼任講師
1988年4月～1997年3月	明治学院大学法学部非常勤講師
1991年2月～2001年3月	財団法人都市防犯研究センター主任研究員
1996年4月～2003年3月	中央大学法学部兼任講師
1998年4月～2003年3月	明治学院大学法学部非常勤講師
2000年4月～2001年3月	中央大学大学院法学研究科非常勤講師
2003年4月～2006年3月	大阪商業大学総合経営学部専任講師
2006年4月～2007年3月	大阪商業大学総合経営学部助教授
2007年4月～2012年3月	大阪商業大学総合経営学部准教授
2012年4月～2017年8月	中央大学法学部教授
2017年8月25日	死去

〔主著〕

William C. Cunningham, John J. Strauchs, Clifford W. Van Meter 著

『民間セキュリティの動向―アメリカ1970年-2000年』（都市防犯研究センター　1991）
アルバート・J. リース・ジュニア , マイケル・トンリィ共編『コミュニティと犯罪（Ⅰ）』（都市防犯研究センター　1994）
アルバート・J. リース・ジュニア , マイケル・トンリィ共編『コミュニティと犯罪（Ⅱ）』（都市防犯研究センター　1995）
〔主要論文〕
「行動変容療法（Behavior Modification Therapy）（アメリカ犯罪学の基礎研究11）」比較法雑誌　20巻１号（1986）
「行動監視（Behavior surveillance）（アメリカ犯罪学の基礎研究13）」比較法雑誌　20巻3号（1986）
「民間警備保障（Private security）（アメリカ犯罪学の基礎研究14）」比較法雑誌　20巻４号（1987）
「近隣警戒プログラム（Neighborhood Watch Program）（アメリカ犯罪学の基礎研究18）」比較法雑誌　21巻４号（1988）
「監獄の歴史―リビジョニストの刑罰史の潮流から」比較法雑誌　22巻４号（1989）
「コミュニティ防犯活動―英米の犯罪対策の新動向」犯罪社会学研究　18号（1993）
「被害の現実と市民の認識（共同研究：犯罪に対する国民の被害不安感）」被害者学研究　６号（1996）
Barry Poyner 著「犯罪予防と持続可能性（特集・環境犯罪学と犯罪分析1）」犯罪と非行　110号（1996）
「リスク社会―保険数理化する犯罪統制」宮澤浩一先生古稀祝賀論文集編集委員会編『宮澤浩一先生古稀祝賀論文集　第１巻』所収（成文堂　2000）
「安全の市場化―リスク社会における犯罪予防」犯罪と非行　136

号（2003）
「地域社会における犯罪予防活動―住民のネットワーキングと環境の設計（特集 環境と犯罪・非行）」更生保護　55巻3号（2004）
「被害者化予防の理論と課題（共同研究：被害者化予防の戦略（ストラテジー））」被害者学研究　15号（2005）
「公共政策としての犯罪予防―リスク社会における安全の公共性」大阪商業大学論集　1巻1号（2005）
「コミュニティのヴィジョン：犯罪を産出するコミュニティと犯罪を阻止するコミュニティ」比較法雑誌　45巻3号（2011）
「理想的な被害者：ステレオタイプの構築と克服」法学新報　118巻9・10号（2012）
「リスク社会と被害者：転換する「被害者」像」被害者学研究　22号（2012）
「事故と被害者：総論（シンポジウム リスク社会における事故と被害者）」被害者学研究　24号（2014）
「高齢犯罪者・被害者と犯罪予防（特集 高齢社会と刑事政策）」刑法雑誌　53巻3号（2014）